

「運動イメージ、表象、行為間比較：  
その神経生理学，神経心理学，神経現象学的な側面と認知神経リハビリテーションの臨床」

2016年12月3日（土）・4日（日）

日本教育会館

12月3日	講義タイトル	講演者
09:15- 09:45- 10:00-	受付 オリエンテーション 認知の樹	
10:05-11:00	認知運動療法(ETC)の核 —世界に意味を与える身体 裏切られた期待，触覚，認知問題，知覚仮説，予測，認知過程，注意，痙性，空間性， 身体の細分化，運動イメージ，変換，情報性，差異・・・	宮本
11:05-12:00	行為間比較(CTA)の核 —世界に意味を与える行為 ロマンティック・サイエンス，神経現象学，認知を生きる，一人称言語，メタファー， 意識経験，志向性，患者と語る，アウトノミア・・・ そして，行為間比較，行為の記憶，中間世界，意図，比較，関連付け，多感覚統合・・・	園田
12:00-12:45	認知カフェ：認知運動療法から行為間比較への旅	宮本・園田
12:45-14:00	昼食	
14:00-15:20	運動イメージと表象の神経生理学	F PANTE'
15:30-16:50	運動イメージと表象の神経心理学および神経現象学的な側面 (共感，模倣，他者行動の解釈)	F PANTE'
17:00-18:20	認知神経リハビリテーションではどのように運動イメージと表象を使用するか？	C RIZZELLO
19:30-	Reception	

12月4日	講義タイトル	講演者
09:15- 09:35-	受付 オリエンテーション	
09:40-11:00	運動イメージと身体及び行為の空間の表象：認知運動療法から行為間比較へ	F PANTE'
11:10-12:30	行為間比較を行うことで，どのような行為表象の変質が現れてくるか どのような新しいリハビリテーションデータを得られるか	C RIZZELLO
12:30-13:30	昼食	
13:30-14:50	行為間比較の臨床 —観察のプロフィール，多感覚統合，訓練の実際	C RIZZELLO
15:00-15:30 終了	認知神経リハビリテーションの旅 —これからの取り組み，回復の可能性，挑戦と期待	